

## 令和2年度 農林水産白書について

## 1 本県の農林水産業について

## (1) 基本構造

- ・耕地面積は全国第15位の79,700haで、そのうち8割を水田が占める。耕地利用率は113.8%で全国2位。
- ・農業経営体数は28,375経営体、うち法人経営体数は871経営体で全国7位と、法人化が進展。林業経営体数は719経営体、海面漁業経営体数は2,386経営体。
- ・一方で、この5年間で、農業経営体数は21%減少。基幹的農業従事者<sup>※</sup>も17%減少し、65歳以上の割合が66%となるなど、農業者の減少と高齢化が進展。

※基幹的農業従事者：自営農業に主として従事した世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者。

## 【耕地面積】

区分	福岡県	全国	全国順位
耕地面積	79,700 ha	4,372,000 ha	15
田	64,200 ha	2,379,000 ha	-
畑	15,600 ha	1,993,000 ha	-
耕地利用率	113.8 %	91.4 %	2

耕地利用率：作付面積を耕地面積で除した100分率

資料：「令和2年耕地及び作付面積統計」等

## 【経営体】

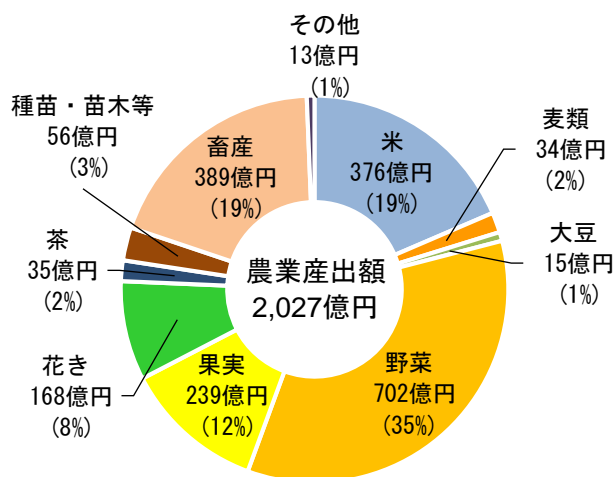
区分	福岡県	全国	全国順位
農業経営体数	28,375 経営体	1,075,580 経営体	17
法人数	871 経営体	30,700 経営体	7
林業経営体数	719 経営体	33,995 経営体	18
海面漁業経営体数	2,386 経営体	79,067 経営体	12

資料：「2020年農林業センサス」、「2018年漁業センサス」

## (2) 農業

- ・農業産出額は2,027億円で、全国16位。うち野菜、果実、花きの園芸品目が55%を占める。
- ・農畜産物の生産量は、小麦、いちご、みずな、キウイフルーツ、洋ラン類(切花)、ガーベラ(切花)が全国2位。
- ・特に販売単価17年連続日本一の「あまおう」、九州一の出荷羽数を誇る「はかた地どり」、全国有数の高級茶「福岡の八女茶」といった数多くのブランド農畜産物を生産。

## 【産出額】(令和元年)



## 【主要品目の生産量】

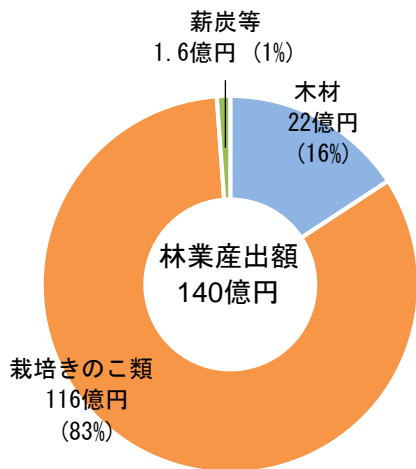
区分	福岡県	全国	全国順位
小麦	56,900 t	949,300 t	2
いちご	16,700 t	165,200 t	2
みずな	3,390 t	44,400 t	2
こまつな	12,000 t	114,900 t	3
セルリー	3,450 t	31,400 t	3
キウイフルーツ	5,230 t	25,300 t	2
かき	16,600 t	208,200 t	3
洋ラン類(切花)	2,000 千本	13,200 千本	2
ガーベラ(切花)	17,000 千本	127,000 千本	2
キク類(切花)	80,100 千本	1,300,000 千本	3
トルコギキョウ(切花)	7,660 千本	88,000 千本	3
洋ラン類(鉢物)	1,100 千鉢	12,300 千鉢	3

資料：「作物統計」、「野菜生産出荷統計」等

### (3) 林業

- ・林業産出額は 140 億円で、全国9位。そのうち、栽培きのご類が 83%を占める。
- ・林産物の生産量は、全国一の生産量を誇るタケノコのほか、ぶなしめじ、まいたけが全国3位。

【産出額】(令和元年)



【主要品目の生産量】

区分	福岡県	全国	全国順位
タケノコ	5,653 t	22,285 t	1
ぶなしめじ	14,751 t	118,597 t	3
まいたけ	3,768 t	51,108 t	3
えのきたけ	4,119 t	128,974 t	4
エリンギ	1,942 t	37,635 t	4

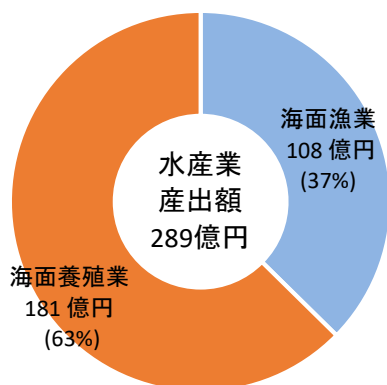
資料:「令和元年特用林産基礎資料」

※タケノコ:生産額では農業産出額に含まれる。

### (4) 水産業

- ・漁業生産額は 289 億円で全国 16 位。そのうち、ノリ、カキ等の海面養殖業が 63%を占める。
- ・水産物の生産量は、マダイ、イサキが全国2位、ノリ養殖、ガザミ類、アサリ類が全国3位。

【産出額】(令和元年)



【主要品目の生産量】

区分	福岡県	全国	全国順位
マダイ	2,045 t	15,953 t	2
イサキ	335 t	3,359 t	2
ノリ養殖	1,323 百万枚	6,980 百万枚	3
ガザミ類	209 t	2,209 t	3
アサリ類	1,100 t	7,976 t	3
アマダイ類	75 t	1,241 t	5

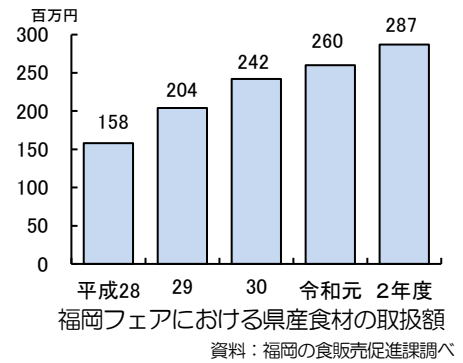
資料:「令和元年度漁業・養殖業生産統計」等

## 2 令和2年度 農林水産業の主な動向

### (1) 県産農林水産物の販売・消費の拡大

#### ○ 「福岡の食」の一体的な販売・消費を促進

- ・県では、東京・大阪事務所に「福岡よかもん・よかとこプロモーションセンター」を設置し、首都圏や関西圏のホテルやレストランへの県産食材のプロモーションを実施。
- ・令和2年度は、コロナ禍で県産食材の販売が低迷する中、県外の外食事業者に対する県産食材の送料支援やサンプルの提供により「福岡フェア」の開催を促進。
- ・県内でも、外食事業者に対し、県産食材の活用を働きかけるとともに、産地と飲食店との商談やフェアの広報を支援し、有名ホテルで「博多和牛」をメイン食材とした「福岡応援フェア」を開催。
- ・この結果、県産食材の取扱額は前年度を上回り、約2.9億円に拡大。



「博多和牛」を使用したフェア提供メニュー

#### ○ コロナ禍で影響を受けた品目の販売を促進

- ・コロナ禍で影響を受けた農林漁業者を支援するため、JA全農ふくれんのサイトで「福岡県ウェブ物産展」を開催。同物産展では、「博多和牛」や「天然トラフグ」、ガーベラといった169商品が出品され、令和3年3月末までに約1.3億円を販売。
- ・また、コロナ禍で飲食店向け需要が激減した県産酒の消費を喚起するため、2年11月に「福岡の地酒・焼酎公式アプリ」を配信。加えて、「福岡の地酒・焼酎オンラインショップ」の開設を支援し、「送料無料」や「県産の酒の肴のプレゼント」といったキャンペーンを実施。



「福岡県ウェブ物産展」トップページ



「福岡の地酒・焼酎公式アプリ」  
トップページ

#### ○ 「福岡の八女茶」ロゴマークの活用で、ブランド力を強化

- ・県では、八女茶の素晴らしさを国内外に発信するため、「福岡の八女茶」ロゴマークを活用し、PR活動を展開。
- ・令和2年度は、東京都内のバイヤーとロゴマーク活用商品のオンライン商談会を実施した結果、東京のレストランで八女茶を使用したデザートやドリンクを提供。また、県内では有名パティシエとコラボし、玉露を使用したスイーツを開発。

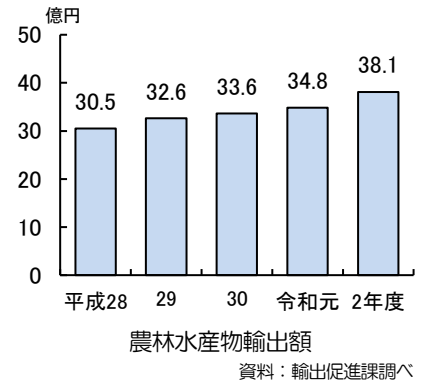


(上) 「福岡の八女茶」  
ロゴマーク活用商品  
(右) 「福岡の八女茶」  
ロゴマーク



## ○ 県産農林水産物の輸出額が過去最高を更新

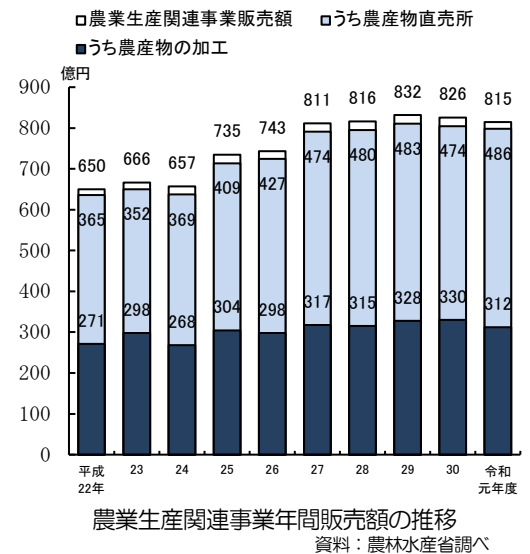
- ・ 県産農林水産物の輸出拡大に向け、令和2年度は、コロナ禍に対応し、海外量販店のバイヤーや輸出業者と県内産地のウェブ商談を支援。この結果、JAにじのトマトは11月からシンガポールへ継続的な輸出を開始。
- ・ また、香港、タイといった7か国・地域で31回のフェアを開催し、県産農林水産物をPR。
- ・ これらの結果、県産農林水産物の輸出額は38.1億円まで拡大。前年度に比べ約9.7%、3.4億円の増加で、過去最高を更新。



## ○ 農業生産関連事業の販売額は815億円で全国3位

- ・ 農林水産省の6次産業化総合調査によると、令和元年度の本県の農業生産関連事業\*の年間販売金額は、815億円で全国3位。そのうち、農産物直売所の販売額は486億円で全国2位、農産加工は312億円で全国10位。

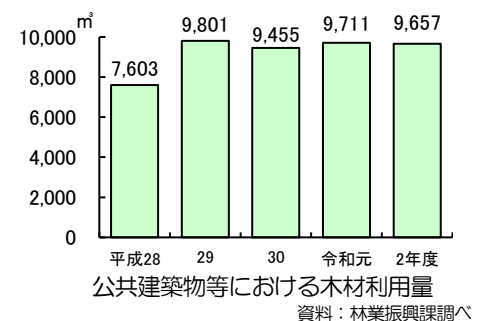
\*農業生産関連事業：農産物の加工、直売所、観光農園といった多様な事業からなり、経営多角化や農産物の高付加価値化として重要な取組。



## ○ 公共施設における木材の利用を推進

- ・ 公共施設における木造・木質化の取組として、県では、令和2年度に、戸畑高校弓道場の木造化、県庁地下食堂「けんちょう Food Marche\*\*」の木質化に加え、林道には木製ガードレール1,247mを整備。
- ・ 市町村においても、上毛町の放課後児童クラブ館や東峰村の宝珠山弓道場といった施設が木造・木質化。
- ・ これらの結果、公共建築物等における木材利用量は、前年度並みの9,657 m<sup>3</sup>で、4年連続で9千m<sup>3</sup>を突破。

\*\*けんちょう Food Marche：正式名は、県民レストラン「けんちょう Food Marche (フードマルシェ)」。県庁地下一階の食堂が3年3月にリニューアルオープン。県産木材を使用した明るく開放的な空間で、旬の県産食材を使った地産地消メニューが味わえる。



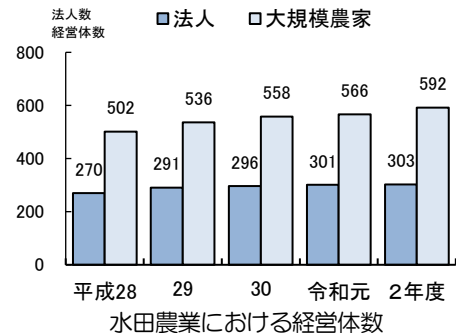
「けんちょう Food Marche」

## (2) 需要に応じた生産力の強化

### ○ 担い手への農地の集積・集約を促進

- ・ 県では、水田農業の持続的発展のため、農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積やスマート農業機械の導入、園芸品目を取り入れた経営の複合化を支援。令和2年度は、耕作者がいない地域の農地を引き受けて規模拡大する担い手に対し、支援金を交付。
- ・ これらの結果、水田面積\*のうち、担い手である大規模農家と集落営農組織への集積面積は 31,307ha となり、集積率は、前年度から1ポイント増加の65%。
- ・ また、法人化した集落営農組織は2増の303法人、10ha以上の大規模農家は26増となる592経営体まで増加。

※水田面積：土地利用型作物（米、麦、大豆）が生産されている水田の面積で、県内約48,500ha。



資料：水田農業振興課調べ

### ○ スマート農業の実証で、収量が2割以上増加

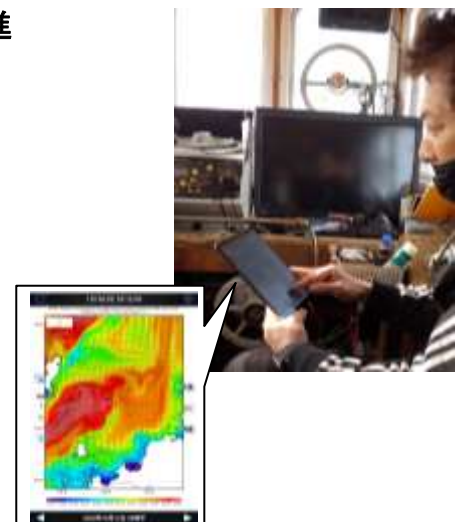
- ・ 県では、作業の効率化や、品質・収量の向上を図るため、スマート農業機器の導入と合わせ、収集したデータを活用できる人材を育成。普及指導センターに相談窓口を設置するとともに、地域や品目ごとにスマート農業に取り組む農家のグループを立ち上げ、その活動を支援。
- ・ 令和2年度は、ハウス内に環境測定装置を設置している、みやま市のなす農家や宗像市のいちご農家のグループで植物の生育に合わせた最適な管理方法を実証。
- ・ 環境データと生育調査の結果を分析し、定期的に普及指導センターや試験場、他の生産者との意見交換を実施。これにより、実証農家の収量は、地域の平均より2割以上増加。



農業者グループによるハウス内での実証検討（宗像市）

### ○ ICT技術を活用した海況予測で、効率的な操業を推進

- ・ 県では、ICT技術を活用して3日先までの水温や潮流の予測データを、漁業者のタブレット端末に配信する「海況予測システム」を開発し、科学的データを基にした効率的な操業を推進。
- ・ 令和2年度は、県調査船や筑前海の漁船、延べ41隻に、小型計測器を搭載し、多くの観測データを収集することで予測精度を向上。システムを使用する漁業者は「漁場を探す時間が短縮され、燃油の使用量が少なくなった」と評価。



船内で「海況予測システム」を使う漁業者



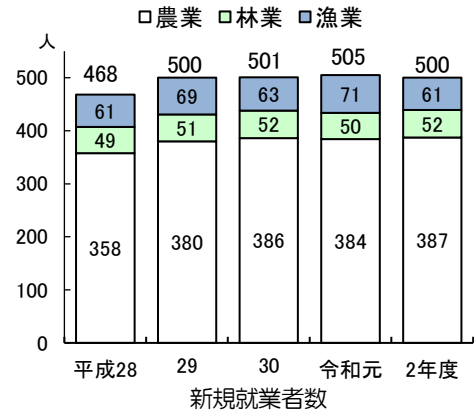
### (3) 意欲ある担い手の育成・確保

#### ○ 農林漁業の新規就業者は4年連続で500人を突破

- ・ 県では新規就業者の確保に向け、就業セミナーや相談会を開催。令和2年度は就業希望者に農林漁業への理解を深めてもらうための動画を公開。
- ・ この結果、2年度の新規就業者は500人で、4年連続で500人を突破。
- ・ また、新規就農者の定着促進のため、新規就農アドバイザーを派遣し、新規就農者の悩み・課題への解決策を提案。2年度は、33市町村、58人の新規就農者を支援。



ガイダンス動画



資料：後継人材育成室、林業振興課、水産振興課調べ

#### ○ 新規就業者の確保に向け、水産高校で漁業ガイダンスを開催

- ・ 県では、将来の漁業を担う人材を確保するため、令和2年12月に県立水産高校の1・2年生を対象とした漁業ガイダンスを開催。
- ・ ガイダンスでは、まき網漁業やノリ養殖、カキ養殖といった本県漁業の概要の説明や、新規就業者のインタビュー動画を通して、漁業の魅力を紹介。参加した生徒からは、「漁業の現場が見られて、実感が湧いた」と好評の声が聞かれ、数名が就業を検討。

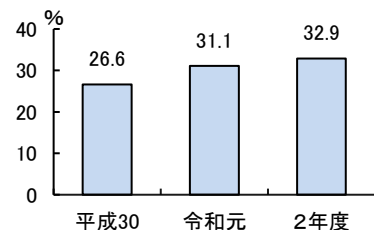


水産高校での漁業ガイダンス

### (4) 県民とともに作る農林水産業の推進

#### ○ コロナ禍で影響を受けた県産農林水産物を、学校給食で提供

- ・ 食育や地産地消は、農林水産業・農山漁村に対する県民の理解と支持に寄与するほか、ワンヘルスの実践にも繋がる重要な取組。
- ・ 県では、学校給食での県産農林水産物の利用を促進するため、「夢つくし」や「元気つくし」、県産キウイフルーツ「甘うい」、「はかた一番どり」の利用を推進。令和2年度は、延べ244校に県産食材を提供。
- ・ また、コロナ禍で影響を受けた、「博多和牛」や「はかた地どり」、マダイ、ブリ、アナゴを約1,000校の小中学校に給食食材として提供。加えて、生産者による食育授業や県産水産物を紹介したリーフレットの配布で、農林水産業をPR。
- ・ この結果、2年度の学校給食における県産農林水産物の利用率は32.9%と、元年度に比べ1.8ポイント増加。



学校給食における県産農林水産物利用率の推移

資料：食の安全・地産地消課調べ



「博多和牛」のおいしい給食

## (5) 魅力ある農山漁村づくりの推進

### ○ 「ふくおかジビエの店」認定制度でジビエの利用を促進

- ・ 県では、捕獲されたイノシシやシカの肉を「ふくおかジビエ」として有効活用する取組を推進。
- ・ 令和2年度から、県内の獣肉処理加工施設で処理されたジビエを通年のメニューとして提供する飲食店を「ふくおかジビエの店」として認定する取組を新たに開始し、3年3月末で30店舗を認定。
- ・ 認定店では、ジビエの美味しさを伝える「ジビエフェア」を開催し、2年10～11月に開催されたフェアには約1,400人が来店。



「ふくおかジビエの店」認定会



ジビエ料理（猪のコンフィ）

### トピック

#### ○ 令和2年7月豪雨からの復旧

- ・ 本県で4年連続の災害となる「令和2年7月豪雨」により農林水産業に大きな被害が発生。農業では農作物の冠水やハウス施設・農業用機械の損壊のほか、水路への土砂流入、林業では山腹や林道の法面崩壊、漁業では航路への土砂堆積、漁場への流木やゴミの流入といった被害が発生。
- ・ 県では、直ちに相談窓口を設置したほか、二次被害を防ぐための応急対策を実施。加えて、補正予算を措置し、ハウス施設・農業用機械の再取得や修繕、山腹や林道の復旧工事、有明海ではゴミの回収を実施。このうち2年連続で被災した農業者に対しては、営農再開に必要な種苗や肥料といった生産資材の購入に対する補助率をかさ上げし、支援を強化。
- ・ この結果、被災した地域では早期に営農や木材生産が再開され、有明海では予定どおりノリの種付けを実施。



播き直されたミズナ  
(久留米市)



林道の応急対策（みやこ町）



漂流ゴミを回収（有明海）

#### ○ 県内で初めて発生した高病原性鳥インフルエンザへの対応

##### 【発生農場の防疫措置の実施状況】

- ・ 令和2年11月25日、宗像市の約9万羽を飼養する肉用鶏農場で、高病原性鳥インフルエンザが県内で初めて発生。
- ・ 11月25日午前5時50分から28日午前5時45分までの72時間で、鶏の処分、飼料及び敷料の埋却、農場消毒を実施。同時に、鶏や卵の移動・搬出制限区域の設定と消毒ポイントを設置し、ウイルスの拡散を防止。



鶏舎での防疫作業に入る  
作業員

##### 【防疫対策を徹底】

- ・ まん延防止のため、県内全ての養鶏場に対し知事が消毒を命令、併せて、消石灰を配布。また、養鶏施設への野生鳥獣の侵入防止や、周辺の雑木伐採といった環境整備の支援により感染防止対策を強化。
- ・ 加えて、国内で家畜伝染病が発生する度に、県内の畜産農家や市町村、関係団体に対し情報提供を行うとともに、飼養衛生管理基準の遵守について農家への指導を継続し、鳥インフルエンザをはじめとした家畜伝染病の感染防止を徹底。

### 3 部門別の動き

#### (1) 農業

##### ○ 米の作況指数は80の「不良」、麦は3年連続で豊作

- 米の作付面積は前年比100ha減の34,900ha。低温・日照不足やトビイロウンカの発生、9月上旬の台風による倒伏で、粒の充実が不足し、作況指数は80の「不良」。
- 麦の作付面積は、朝倉市や久留米市といった地域で増加し、前年比600ha増の22,100ha。生産量は、平年の70,000tを上回る85,000t。適期播種や排水対策の徹底に加え、生育後半は天候が良く、粒の充実が良好であったことが要因。ラーメン用小麦「ラー麦」の作付面積は、80ha増の1,840ha。生産量は平年に比べ1,800t増の6,700t。

米・麦・大豆の作付面積

品目	単位:ha、%		
	元年産 (a)	2年産 (b)	(b)/(a)
米	35,000	34,900	100
元気つくし	6,230	6,630	106
夷りつくし	400	370	93
麦	21,500	22,100	103
ラー麦	1,760	1,840	105
大豆	8,250	8,220	100

資料：農林水産省「作物統計」、水田農業振興課調べ

##### ○ 「早味かん」をはじめ、県育成品種の栽培が拡大

- 温州みかんの栽培面積は、前年比70ha減の1,180ha。優良品種の「早味かん」や「北原早生」への改植は、前年比11ha増の171ha。
- かきの県育成品種「秋王」の栽培面積は、前年比1ha増の39ha。
- キウイフルーツの県育成品種「甘うい」の栽培面積は、前年比1ha増の19ha。販売量は8t増の219t。

果樹優良品種の栽培面積

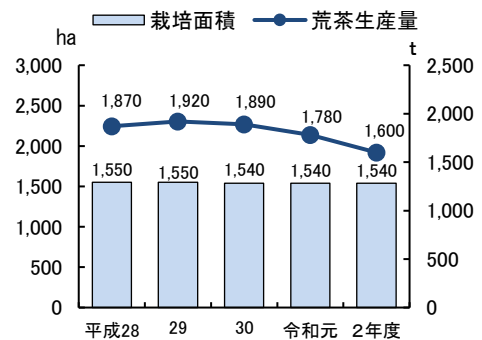
品目	単位:ha、%		
	元年産 (a)	2年産 (b)	(b)/(a)
温州みかん	1,250	1,180	94
早味かん	68	79	116
北原早生	92	92	100
かき	1,250	1,200	96
秋王	38	39	103
キウイフルーツ	286	282	99
甘うい	18	19	106

資料：農林水産省「作物統計」、園芸振興課調べ

##### ○ 一番茶（煎茶・玉露）価格は全国一

- 茶の栽培面積は前年度同数の1,540ha。荒茶生産量は、4月の夜温低下で新芽が十分に伸長しなかったことにより、前年度比10%減の1,600t。伝統本玉露の栽培面積は、生産者の減少により前年度比1.4ha減の14.2ha。「さえみどり」や「おくみどり」といった優良品種への改植面積は19ha増の192ha。
- 一番茶の荒茶価格は煎茶で2,980円/kg、玉露で5,183円/kgといずれも全国一。
- 全国茶品評会の玉露の部では、7年連続で農林水産大臣賞を受賞。八女市が産地賞\*を20年連続で受賞。

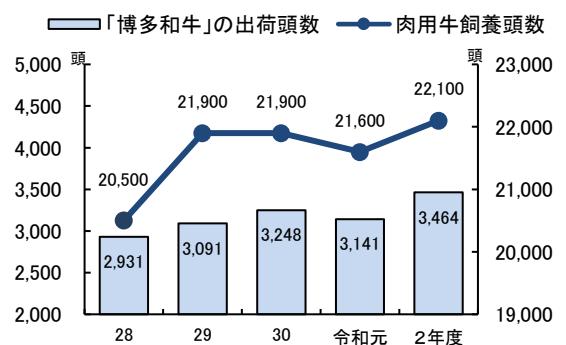
※産地賞：茶種ごとに成績優秀な市町村に対し褒賞するもの。同一市町村から3点以上出品があり、審査成績の上位3点の合計審査得点をもって決定。



資料：面積は農林水産省「耕地及び作付面積統計」、荒茶生産量は農林水産省「作物統計（工芸作物）」

##### ○ 「博多和牛」出荷頭数は323頭増の3,464頭

- 肉用牛飼養戸数は、前年に比べ7戸増の198戸。飼養頭数は、和牛繁殖雌牛の増加で500頭増の22,100頭。
- 「博多和牛」の出荷頭数は、前年度に比べて323頭増の3,464頭。



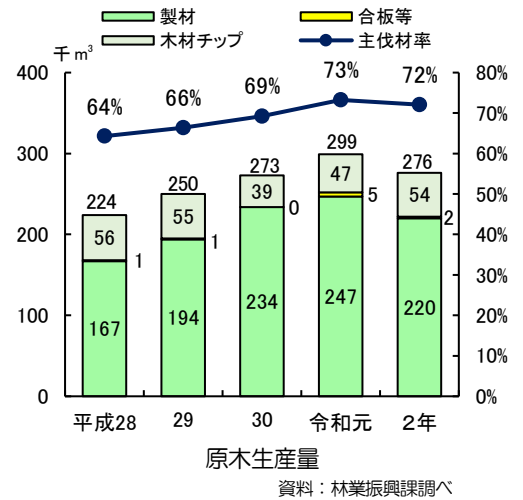
資料：畜産課調べ



## (2) 林業

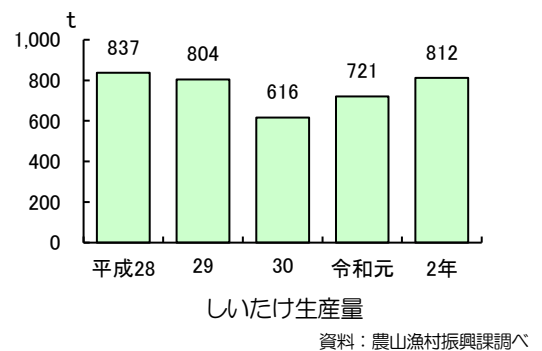
### ○ 原木生産量は2万3千m<sup>3</sup>の減少

- 令和2年の原木生産量は、前年に比べ8%減の27万6千m<sup>3</sup>。これは、コロナ禍で木材の主な需要先となる住宅の着工戸数が減少したことに伴い、木材価格が下落したことが要因。
- 主伐の推進により、原木生産に占める主伐材の割合は72%まで増加。
- 原木の用途別では、製材用が22万m<sup>3</sup>、合板等用が2千m<sup>3</sup>、木材チップ用が5万4千m<sup>3</sup>。



### ○ しいたけの生産量は13%増

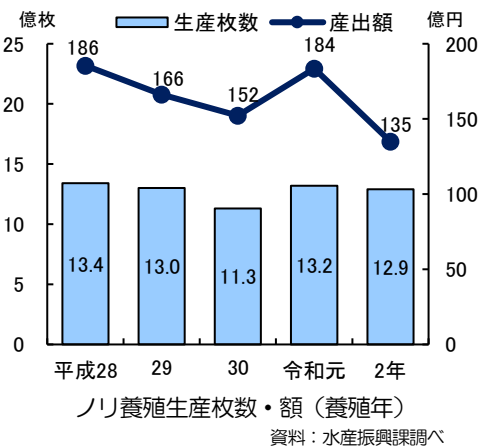
- 令和2年のしいたけの生産量は、前年に比べ13%増の812 t。
- これは、コロナ禍の外出自粛で、家庭での需要が高まり、菌床しいたけの生産量が増加したことが要因。
- 県では更なる需要拡大に向け、「福岡県産しいたけロゴマーク」を活用し、県産しいたけの魅力のPRにも取り組む。



## (3) 水産業

### ○ ノリ生産量は平年並みを維持

- ノリの生産枚数は平年比(過去5年平均比)1%増の12.9億枚。植物プランクトンの影響で海水中の栄養塩が減少した時期があったものの、県による海況の把握と漁業者への養殖指導を徹底した結果、平年並みの生産枚数を維持。
- 平均単価は、コロナ禍により需要が減少したため、平年に比べ2.37円安の10.43円/枚で、生産額は平年比80%の135億円。



### ○ カキ養殖生産量は平年比16%増の2,215 t

- カキの養殖生産量は、平年(過去5年平均)に比べ309 t増の2,215 t。
- これは、海況が安定していたことに加え、食害防止対策や養殖管理を徹底したことで、へい死が少なく、順調に成長したことが要因。

